

農林水産省が22日発表した全国小売店での野菜販売価格の動向(13～15日時点)によると、キャベツやハクサイなど調査対象の8品目で平年に比べて4～35%安い価格となった。暖冬で生育が順調に進んで出荷が増える一方、鍋物用などの需要が伸び悩んでいることが影響した。消費者にとっては恩恵だが、農家は対応に苦慮している。

農水省が全国470店舗の小売価格を調べた。鍋物の定番の具材として使われるハクサイは平年より22%安く、1キロ当たり146円だった。キャベツは34%安の143円、ネギは14%安の668円、ダイコンは20%安の146円となった。

最も値下がり率が大きかったのはレタスの35%安で、ホウレンソウやトマトも安くなった。昨秋までに収穫した在庫を出荷しているタマネギは4%安にとどまった。

農水省によると、昨年11月ごろから今月にかけて例年よ

暖冬で野菜値下がり

キャベツ	▲34
ネギ	▲14
レタス	▲35
タマネギ	▲4
トマト	▲9
ホウレンソウ	▲7
ハクサイ	▲22
ダイコン	▲20

※単位は%、▲はマイナス。
農林水産省調べ

主な野菜価格の平年比

県内は2、3割安

よると3月までは気温の高い傾向が全国的に続く見通しで、価格動向に当面、大きな変化はないとみられる。

県内でも暖冬の影響で野菜の値下がり傾向が続いている。全国農業協同組合連合会(JA全農岐阜)によると、ダイコンやキャベツ、ハクサイなどの市場価格は2、

3割値下がりし、農家から不安の声も出ているという。

JA全農岐阜によると、例年は積雪などで収穫できない日もあるが、今年は収穫作業も順調に進んでいるという。

担当者は「暖冬で生育が良い上、雪が降らないのでロスも出ない。野菜が出来過ぎの状態」と説明。暖冬は今後も続く見通しで、「ここまで雪が降らないのは異常」と話している。

り気温が高く、全国的に生育や収穫時期が早まったという。キャベツやダイコンは育ちすぎると品質が低下したり、規格外となったりするため、生産者は値下がりが続く中でも価格を維持するために出荷時期を分散することが難しい。どうしても収穫が過剰の場合は産地で廃棄されるケースもある。

暖冬により収穫時期が早まったことで、今後寒波が襲ったなどの影響があれば春先の出荷が減って値上がりに転じる可能性もある。ただ気象庁に

収穫早まり出来過ぎ ◆ 鍋物需要伸びず



店頭に並ぶ暖冬の影響で値下がりが目立つキャベツやダイコンなどの野菜
22日午後、東京都練馬区